

# みんなの随想

8月15日。3日目の宿泊

予定地である兔岳避難小屋に午後2時到着した。早朝から10時間半のアップダウンの連続でようやく辿り着いた小屋は想像を絶する荒ら屋だ。荒廃し雨漏りやすきま風をボランテアが補修したと思われる、半坪くらいの土間に約6畳の寝泊まりスペースのみで、古びた牢獄を想像する建造物である。

次の小屋までは難所を越え5時間かかる。ここは南アルプスの奥地でどうにもならぬことを自覚し「住めば都」。無理すると遭難騒

## 渡辺 裕之

福島市・渡辺エンジニアリング  
取締役会長



ぎにつなかりかねないのでTさんに、ある物は全部着の連発。目覚まし無しで起床山届に記載のとおり1泊して寝るようアドバイス。先床し、午前3時に南アルプお世話になることにした。ずは長袖シャツ、チョッキ、ス最南端の3000m峰で同行のTさんと2人で小上着、防寒着、ゴアテックある聖岳を目指し出発し屋半分を独占し、先ずはおスの雨具を着て、寝袋に入れた。ヘッドライトを頼りに湯割りウイスキーで乾杯。異様にザックを枕にした。異様に下り森林界に入ると、またピーナツやサラミ、チーズな対応に信じられない様子を掴みにしながら、山時間のTさんと一足遅れの健脚の夕食の準備に取りかかった。そんな男が続いて寝袋に入ると胸が弾んだ。

## 山に魅せられて(20)

た。温かいご飯、ハンバーグだった。カレー、生野菜、鯖缶、味噌汁にポンカン、バナナのデザートなど豪華な食事に大満足。疲れを癒やししながら地図を開いて、重装備で越えてきたコースを辿った。と内心喜んだ。

8月16日。爆睡モードだった私と対照的に小屋仲間だけの人生ドラマをデジカメに収めた。